

〈監修〉飯嶋 睦先生 (東京女子医科大学 脳神経内科 臨床教授)

……………パーキンソン病と診断されました。お薬はすぐに飲み始めた方が良いでしょうか？

現在では、お薬による治療を早く始める方が良いと言われています<sup>1)</sup>。以前はパーキンソン病と診断されても、初期のころはからだに少し不便があっても我慢して、お薬を飲むのを遅らせた方がよいだろうという考え方がありました。

しかし、現在では早くからきちんとお薬を使い、症状を改善させる方がよいと言われるようになっていきます<sup>1)</sup>。また、治療開始が遅れることで障害が固定する可能性もあると言われています<sup>2)</sup>。



村田美穂(監修): スーパー図解パーキンソン病. 法研, 東京, pp66-67, 2014.

……………パーキンソン病で寿命が短くなりますか？

基本的には、パーキンソン病自体が原因で亡くなることはありません<sup>3)</sup>。パーキンソン病と上手に付き合えば、パーキンソン病でない人の寿命と大きく変わらないと言われています<sup>4)</sup>。

ただ、パーキンソン病の患者さんでは誤嚥性肺炎や感染症、骨折などの合併症が原因で亡くなることが多くなります。逆に言えば、治療をきちんと進めて、感染症や転倒を防げば、寿命を全うできると言えます<sup>3)</sup>。



……………パーキンソン病は遺伝する病気なのでしょうか？

遺伝性のパーキンソン病は、全体の5~10%程度だと言われています<sup>5)</sup>。

パーキンソン病は、遺伝要因と環境要因(生活習慣や薬物などの影響)が複雑に絡み合い、そこに加齢の影響を受けて発症すると考えられます。たとえ、発症の危険を高める遺伝子を持っていたとしても、遺伝子それだけでパーキンソン病を引き起こすほど影響は強くないのです。

ただし、少数ではありますが、遺伝によって起こる家族性パーキンソン病があり、全体の5~10%はこの家族性パーキンソン病だと言われています<sup>5)</sup>。

ここでいう環境要因とは、極端な偏食やストレスの多さ、農薬への曝露などですが、発症に関与していると指摘されているものはありますが、「これは危険」とはっきり証明されているものは今のところありません<sup>5)</sup>。

## ●パーキンソン病は遺伝要因と環境要因が絡み合って発症

### 閾値を越えると発症する

パーキンソン病は、いくつかの要因が重なり、発症するかどうかの境である閾値(発症ライン)を超えてしまった場合に生じると考えられています。

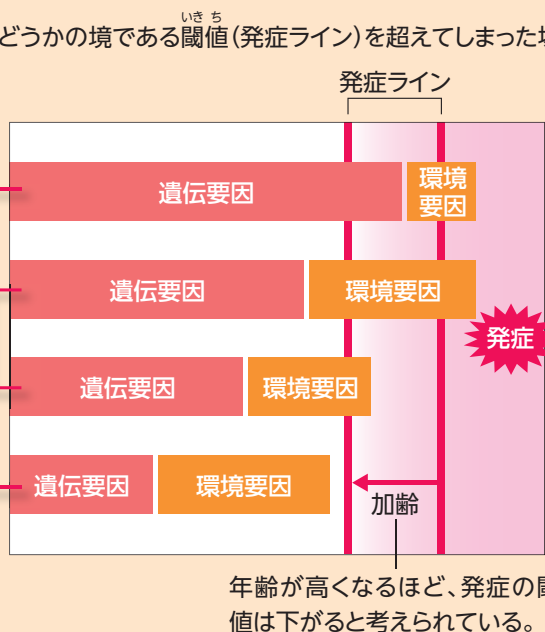
#### 家族性パーキンソン病

多くのリスク遺伝子をもつなど遺伝要因が強く、わずかな環境要因が加わったり、年をとって発症ラインが下がってくると発症する。

#### 一般的なパーキンソン病

いくつかのリスク遺伝子があるところに、ほかの要因が加わることで発症する。

遺伝要因が少なければ、ほかの要因が重なっても発症には至らない。



柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp30-31、2015改変作成

## …………パーキンソン病の人は認知症になりやすいのでしょうか？

以前は、パーキンソン病は運動症状だけの病気と考えられていましたが、最近では認知症を合併しやすいことがわかってきました<sup>3)</sup>。

パーキンソン病の人に認知症が目立つようになった一因には、パーキンソン病の治療方法が進歩して、寿命が長くなったことも関連していると言われています。また、飲んでいるお薬の影響で認知機能が低下することもあります。注意力が低下した、お料理の手順を間違えるようになったなど、気になることがありましたら主治医にご相談ください<sup>3)</sup>。

## …………パーキンソン病と前向きに付き合うにはどうしたらよいですか？

パーキンソン病は適切な治療(薬物療法や運動療法)によって、長く良い状態を保てるようになっていきます。まずはパーキンソン病に関する正しい知識を持ち<sup>6)</sup>、ご自身も治療に参加する気持ちが大切です。

ただし、どうしても気分が落ち込んで、一人では不安な時には主治医にそれを伝えましょう。医師だけでなく、看護師、薬剤師、家族や友人も力になってくれるはず<sup>6)</sup>。



飯嶋 睦先生  
からのコメント

パーキンソン病の治療には薬物療法は欠かせません。患者さんによって症状は様々です。主治医とよく相談をしながら治療を行いましょう。また、早期からの運動療法は症状の進行を遅らせ、認知症の予防にもなります。積極的に趣味や運動を行ってください。

#### 参考資料

1) 村田美穂(監修)：スーパー図解パーキンソン病。法研、東京、pp64-65、2014。

2) [パーキンソン病診療ガイドライン]作成委員会(編)：パーキンソン病診療ガイドライン2018。医学書院、東京、pp99-102、2018。

3) 武田篤(武田篤編)：パーキンソン病実践診療マニュアル。中外医学社、東京、pp62-68、2016。

4) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp32-33、2015。

5) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp30-31、2015。

6) 前田哲也(柏原健一ほか編)：みんなで学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、p44、2013。